

# 「老年学の現状と可能性」

桜美林大学大学院老年学研究科 教授 長田 久雄

筆者の所属する桜美林大学大学院老年学研究科は2002年に開設されましたが、現在でも、老年学の学位を授与できる高等教育機関は日本では本大学院だけです。筆者が老年学研究科の教員であることを知った方の中には、老年学に興味を持ってくださる方もおられますので、この場をお借りして老年学の現状と展開の可能性についてご紹介させて頂きたいと思います。

老年学(Gerontology)は、加齢変化の科学的研究、中高年の問題に関する科学的研究、人文学(humanities:歴史、哲学、宗教、文学など)の見地からの研究、成人や高齢者に役立つ知識の応用(Maddox et al, 1991)と世代間問題の研究(柴田ら、2007)を担う分野です。医学、心理学、社会学を中核とした学際的研究を行い、それを社会的問題の解決に応用、還元することが老年学の特徴ともいわれております。

今日、認知症とその介護、うつ病、自殺、孤立死、ゴミ屋敷、万引き、詐欺被害、運転、就労など、高齢者や高齢社会に関わる社会問題を見聞する機会が多くなっておりますが、それらは早急に解決しなくてはならない課題です。これらの課題を解明し解決す

るための研究や実践を充実させなくてはならないことは、多くの人が認めてくださることと思います。老年学は、その役割を担う分野でもあります。

しかし、学際的老年学を体系的に教育する高等教育機関は、いまだ不十分であり、老年学も十分に社会に浸透しているとはいえません。これまで老年学の大学院教育に携わってきた経験から筆者は、その背景の一つとして、老年学を学ぶことがどのように社会に役立ち、学ぶ人にとってどのような実際的で具体的な利点があるかということが明確にされていないという事情があると考えております。老年学が研究だけにとどまらず、研究と実践的応用と教育とが相互作用を持ち融合することが、高齢社会の課題解決に役立つ展開の可能性を開くものと感じております。

本稿が、皆様に老年学に関心を持って頂くきっかけとなれば望外の幸せでございます。

## ◇ PROFILE 長田 久雄(おさだ・ひさお)

同志社大学文学部卒業。早稲田大学大学院修了後、東京都老人総合研究所(現、東京都健康長寿医療センター研究所)、東京都立保健科学大学(現、首都大学東京健康福祉学部)勤務を経て、2002年より現職。臨床心理士、指導健康心理士、博士(医学)山形大学。日本老年社会学会前理事長、日本認知症ケア学会副理事長、日本応用老年学会常務理事、民間企業のメンタルヘルス対策指導にも従事。専門は、老年心理学、健康心理学、臨床心理学、生涯発達心理学。